

調布市長選予定者が議論

6/14 読

市議会本会議で 出馬意向の市議と現職

調布市議会定例会本会議が13日開かれ、鮎川有祐市議(45)が、長友貴樹市長(65)に今後の市政の展望などについて質問した。2人は次期市長選(7月1日告示、同月8日投開票)に立候補する意向を表明しており、選挙戦を意識した議論が交わされた。

鮎川市議はまず、子育て支援策について「待機児童解消はもちろんだが、在宅での子育て支援にも力を入れるべきだ」などと主張。これに対し、長友市長は「就任以来約3500人の受け入れ枠を拡大し、切れ目のない子育て支援の充実や教育環境の整備に取り組んできた」と答えた。

また、鮎川市議は「当初の公約で女性助役(副市長)の登用実現を掲げていたが果たせず、今年4月から部長職も全員男性となつてしまった」と批判。長友市長は「女性の視点を市

政に反映させるため、女性職員の登用拡大も重要課題と認識し、昇任試験制度を見直すなど取り組んできた」と応じ、「私自身、現在の状況は不本意」と述べた。

(読売新聞 6月14日朝刊)